

平塚協会報

発行所 公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部 発行責任者 高橋 千之

第90回 全国安全週間を迎えて

平塚労働基準監督署長 湯川 和彦

神奈川労務安全衛生協会平塚支部及び会員事業場の皆様方におかれましては、日ごろから労働災害の防止を始めとした当署の行政運営にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、ご案内のとおり、今年度も

「組織で進める安全管理

みんなで取り組む安全活動

未来へつなげよう安全文化」

をスローガンに6月を準備期間、7月1日から7日までを本週間として第90回全国安全週間が展開されます。

昨年の労働災害による全国の死亡者数は928人で、2年連続で1,000人を下回りました。また、神奈川労働局管内の死亡者数は28人で、いずれも過去最少となりました。これはひとえに、長年にわたり安全衛生管理に携わってこられた多くの方々のご努力の賜物であり、心から敬意を表する次第です。

しかしながら、全国の休業4日以上死傷者数は117,910人、神奈川労働局管内の死傷者数は6,598人で、それぞれ一昨年来、全国では1,599人、神奈川労働局管内では87人上回る結果となりました。

現在取り組んでいる第12次労働災害防止推進計画では、平成29年までに、平成24年の死亡者数及び死傷者数のそれぞれ15%以上の減少を図るという目標を設定していますが、死傷者数の減少目標の達成は大変厳しい状況となっています。

休業4日以上死傷者数が減少しない要因としては、基本的な安全管理が労働者に徹底されていないことや死傷災害が増加している第三次産業においては、多店舗展開企業

等の傘下の事業場に安全管理を担当する方がおらず、安全活動が低調であることなどが指摘されています。

このような状況を踏まえ、今年度の全国安全週間のスローガンは、事業場と本社による全社的な安全管理を進め、労働者一人一人の安全意識を高め、安全な職場環境を継続的に形成することを呼びかけています。

会員事業場におかれましては、全国安全週間を契機として、労働災害防止の重要性についての認識をさらに深めていただき、それぞれの事業場で安全衛生管理体制の確立、効果的な安全衛生教育の実施、リスクアセスメントの普及促進、安全意識を高揚させるための各種取組、職場の総点検等の自主的安全衛生活動の推進に引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。

また、これからの時期、懸念されるのが職場における熱中症の多発です。厚生労働省では熱中症による死亡災害ゼロを目指して、今年の5月から9月までの間、特に7月を重点取組期間として各災害防止団体等と連携し熱中症予防対策の徹底を図ることを目的に「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を展開することとしています。暑さ指数の適正な把握、暑さ指数に応じた対策の実施、労働者の健康状態の把握等適切な対応をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員事業場と皆様方のますますのご隆盛とご健勝をお祈り申し上げます。



平成29年度 全国安全週間スローガン

「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」

第90回 全国安全週間平塚地区促進大会

『組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化』のスローガンのもと、去る6月9日(金)、平塚市中央公民館大ホールにおいて「平成29年度第90回全国安全週間平塚地区促進大会」が開催されました。

大会は、陸上貨物運送事業労働災害防止協会平塚分会八巻分会長による開会のご挨拶から始まり、次に、平塚労働基準監督署湯川署長によるご挨拶と平塚市落合市長による来賓挨拶へと続き、引き続き、平塚労働基準監督署青山安全衛生課長により、労働災害発生状況並びに、全国労働安全衛生週間実施要綱の説明をいただきました。

休憩をはさみ、特別講演として、「仙台港サイロ社長の3. 11」を題として、仙台港サイロ(株) 西方正博代表取締役社長より講演をいただきました。冒頭仙台港には津波は

来ないと思っていたとの話から始まり、緊迫感あふれるビデオ映像、ご自身が体験された惨状を淡々と語られ、最後に実際に遭遇した場合、命を守ることが先決であると話されていたのが印象的でした。

最後に、陸上貨物運送事業労働災害防止協会平塚分会小俣副分会長より閉会のご挨拶があり、本大会を終了しました。
佐藤産業(株) 佐藤 記



■労働災害発生状況 (労働者死傷病報告件数)

(平成29年5月末現在)

		製造業	建設業	運輸業	陸上・港湾貨物 運送取扱業	その他	計
平 塚 労働基準 監督署	平成29年1月～5月 うち死亡災害	29 2	13 0	2 0	14 0	60 1	118 3
	平成28年 うち死亡災害	94 0	51 0	26 0	49 0	227 1	447 1
	平成27年 うち死亡災害	91 0	65 0	22 0	48 0	218 0	444 0
神 奈 川 労働局	平成29年1月～5月 うち死亡災害	300 3	232 2	123 0	286 3	957 3	1,898 11
	平成28年 うち死亡災害	1,012 3	821 9	338 2	859 2	3,568 12	6,598 28
	平成27年 うち死亡災害	1,005 4	781 10	351 0	876 7	3,498 15	6,511 36



「今後ともよろしくお願いします」

古河電気工業(株)平塚事業所 衛生管理室 眞壁 亜紀子

古河電気工業(株)平塚事業所保健師の眞壁と申します。2015年7月に平塚事業所衛生管理室に着任と同時に、労安協の産業保健委員会にも仲間入りさせていただきました。産業保健委員会では、事業所見学や研修会にて近隣会社の産業看護職の方々と、衛生部会では、地区衛生週間促進大会や衛生部会講習会にて安全・衛生担当の方々と一緒に学んだり産業保健推進活動を行えたりと、刺激と元気をいただいております。

近年、健康経営の考えも広まりつつあり、企業における産業衛生活動は、ますます重要になります。それに伴い産業保健にかかわるスタッフは、その資質向上に努めなければなりません。そう考えると、近隣企業の同職にかかわる方々と意見交換・相談や共に学べる場が近くにあるということは、有難くまた心強くもあります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

アンケート調査へのご協力のお礼とご報告

平塚労働基準監督署

神奈川労働局管内では、ここ数年、労働災害による休業4日以上の死傷者数は、毎年6,500人前後に上ります。神奈川労働局管内で発生した労働災害を分析すると、休業4日以上の死傷災害件数の約3割を業務経験1年以下の労働者（パートタイム労働者等非正規雇用労働者を含みます。）が占めている状況にあります。

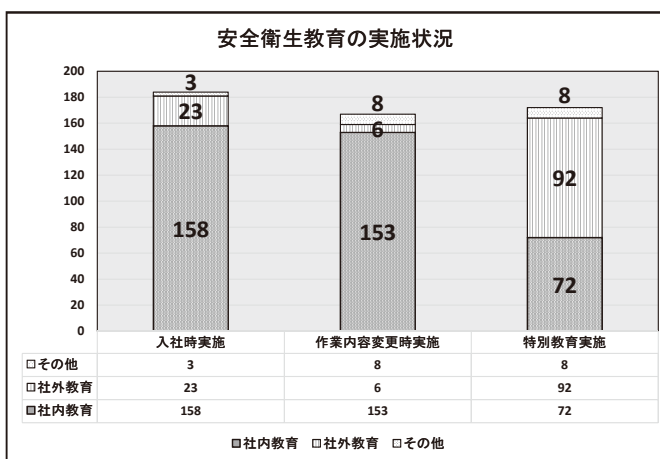
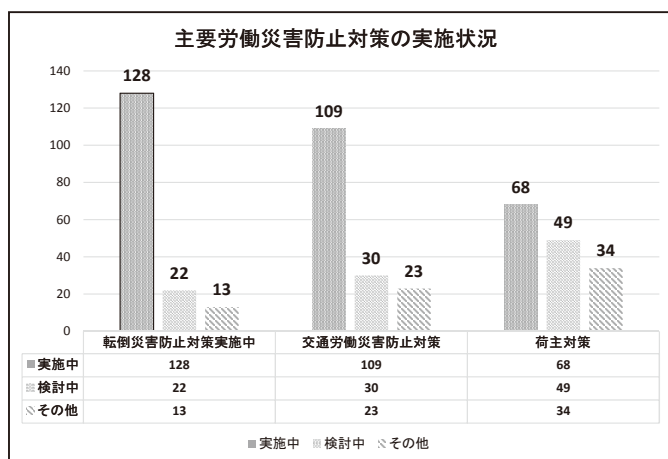
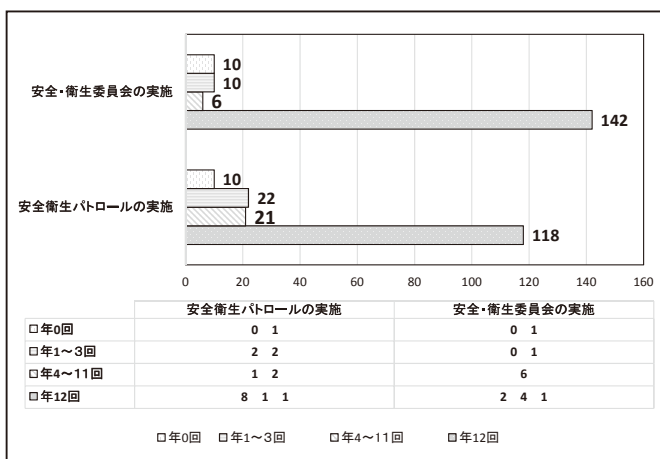
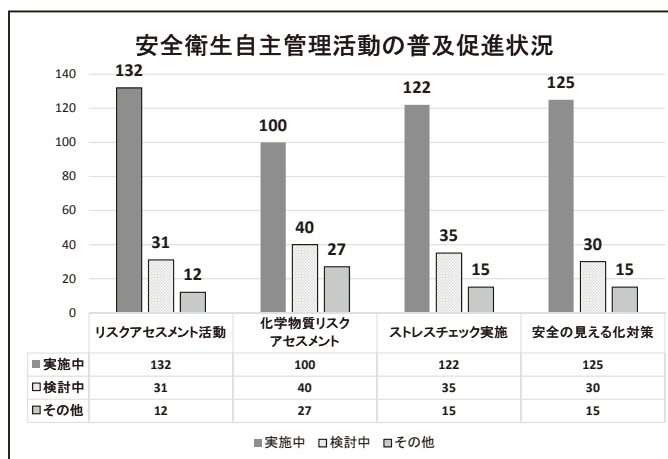
労働災害の防止を図っていくためには、雇入れ時および作業内容変更時の安全衛生教育の実施、リスクアセスメントの導入や安全の見える化の取組といった事業場における自主的安全衛生管理活動の一層の促進が求められているところです。

そこで、平塚労働基準監督署では、神奈川労働安全衛生協会平塚支部（以下「支部」といいます。）を始めとした災

害防止団体及び管内の工業団地等に対して平成29年5月9日付けの監督署長名の文書で、それぞれの会員事業場に対する教育・研修会の開催や自主的パトロールの実施についての働きかけ等を要請いたしました。

これを受けて、今般、支部では、会員事業場に対する自主的安全衛生管理活動等に関するアンケート調査を実施していただきました。

支部の事務局でご提出いただいた回答を取りまとめた結果は以下のとおりですが、ご多忙の折、多数の事業場にご協力いただいたことに感謝申し上げますとともに、アンケート結果をそれぞれの会員事業場において今後の取組に生かしていただければ幸いです。



アンケート結果報告

アンケートご協力ありがとうございました。ご回答いただいた事業場は172社となりました。

自社の安全衛生管理活動を振り返っていただく機会になったのではないのでしょうか。

さて、今回は「実施中」「検討中」「その他」ということでご記入いただきましたが、「その他」をご記入

いただいた中には「対象外」「従業員数が少ないので対象外」「内容が不明」といった回答も見られました。

法令改正に伴い情報発信を繰り返してきましたが、「検討中」が「実施中」に繋がるような情報提供を行っていきます。



雑感

『日本酒にまつわるあれこれ』

関西ペイント株式会社平塚事業所 伊藤 一彦

当社の本業は名前のとおり、塗料の製造・販売ですが、従業員への福利厚生の一環として居酒屋(社員クラブ)を経営・保有しております。

ここに毎週金曜日、クラブ活動と称して日本酒好きのOB、従業員らが集り全国の地酒を楽しむ会を催しており、私が事務局を仰せつかっております。

元々は、社員が出張先や帰省先でお土産に購入してきた地酒を社員クラブで飲んでおりました(社員クラブは飲み物、食べ物とも持ち込みOKです。)が、いつの間にか全国47都道府県全ての日本酒を飲もうと目標設定し、白地図に制覇した県を塗りつぶし、約4年の歳月を掛けて目標達成することができました。その数なんと、243蔵350種類。同一銘柄を複数回飲んでいきますので総本数は判りません。

そんな会で話題になった日本酒にまつわる四方山話をご紹介します。

その1：全国の酒造で最も古く歴史のあるのは、茨城県笠間市の須藤本家。茨城県に最古の酒造があるのは少し意外

ですが創業なんと永治元年(1141年)で応仁の乱の始まった1467年より320年以上も前の創業になります。2番目に古いのが秋田県にかほ市にある飛良泉本舗の1467年なので圧倒的な古さです。

その2：日本酒発祥の地は、宮城県西都市にある都萬神社。記紀に出てくるコノハナノサクヤ姫が甘酒を作ってお乳代わりに飲ませたとして、境内に「日本酒発祥の碑」があるらしい。

その3：日本酒は何と放射能も防護。広島に原爆が投下された1945年8月6日の前夜から朝まで日本酒を飲んでいた広島大学醸造学科の教授以下8人が、爆心から1km以内の大学構内で被爆したにも拘らず、後遺症にもならず生き残りました。日本酒に含まれる複数の菌、酵素が放射能を分解させたとか、？

かの国からの核兵器攻撃も迎撃システムの配備では無く、一兵卒としては日本酒で防護可能？と信じ夜な夜な盃を傾けております。

●職場に役立つ「カウンセリング講座」●

6月2日(金)、秦野商工会議所にて、職場に役立つ「カウンセリング講座」が開催され、22名の方が参加しました。

カウンセリングの基本やノウハウについて、産業カウンセラーの田村様から事例や経験を交えた講義を実施いただくとともに、傾聴体験や事例検討により受講者も一緒になって適切な対応を考えていく、とても有意義な講座でした。

カウンセリングは、「信頼関係をつくる」「問題をつかむ」「問題を解決する」のステップで進めていくそうですが、大切なことは、「相手のことを大切に思うこと(=カウンセリングマインド)」と「傾聴」だと伺いました。特に、傾聴とは、字が表しているように、相手の話を「耳」「目」「心」で聞く(聴く)ことであると仰っていたことが印象に残りました。

本講習で学んだ点は、カウンセリングや悩み相談の場だ

けではなく、仕事や日常生活のコミュニケーションに活かしていこうと思います。

スタンレー電気(株) 加藤 史康 記



編集後記

今年もきっちりと梅雨の季節がやってきた。今、水生植物に凝っています。

ことの発端は4年前の秋に処分売り出して睡蓮の苗を購入したことです。庭に1m四方の穴を掘り、ブルーシートを敷いて即席の池を作り、池に沈めましたが、その年はいまいち成長がみられず、枯れたかなと思いつつ放置していたのが、翌春になって芽が伸び始めたので、肥料をやったり、深さを調整しながら水を交換したり、せっせと世話

をしたかいがあって赤い花をつけました。普通の草花とはちょっと違って何か高級感(ちょっとそこらでは見られないぞ、希少価値があるぞという意味の分からない感覚)、自己満足感があります。(実際、苗の値段は少しお高いです)調子に乗って今度はハスの種を入手した。水につけて発芽させ、枯らすことなく越冬できたのですが、まだ花咲くには至らなかった。残念！しかし、翌年には見事に白い花が開花、お盆の砂糖菓子みたいで両手を合わせてしまいそう。

ところで、睡蓮とハスの違い分かりますか。葉に切れ目があり、葉も花も水面に浮かぶのが睡蓮、葉がまん丸で花が水面から突き出て咲くのがハスです。普通の草花に飽きたら試してみてもいいかな？

(株)藤田電機製作所 小笠原 記